

続・山手通り(その2)

今私の手元に明治初期からの地図があり年代を追って見ていると「山手通り」がある地形が急速に変わって行く姿がよくわかります。東海、中山、日光、奥州そして甲州と言った5街道は時代と共に拡幅され整備されて来ましたが、「山手通り」は昭和の初期まで影も形も図面には有りませんでした。

日本の首都としての機能を充分に果たすには道路の整備が重要で「関東大震災」を契機に「震災復興計画」が立案されました。そして拡幅される前、幅員22mの「山手通り」は昭和初期に着工されましたが昭和16年太平洋戦争により、工事は停滞または中止され、戦後になって漸く完成されました。

しかし日本の戦後復興は想像以上に発展し、特に車社会は交通の常識を一変、さらなる道路の拡張に拍車をかけました。



一部完成した「山手通り」

平成17年10月3日
その一部が開通(早稲田通りから東中野駅へ向かって約180m)しました。車道と自転車通行帯、歩道が完全に分離され、植込みや敷石の色彩も鮮やかに見事に完成されました。今後の全線完成が待たれます。



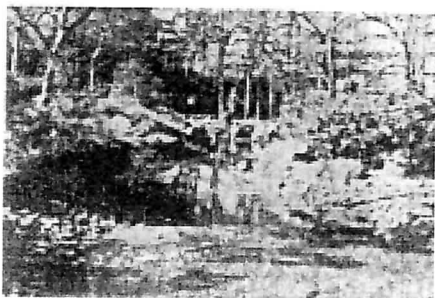
落合水再生センター(その1)

『落合処理場』は昭和39年、東京オリンピックが開催された年に完成し、稼動開始されましたが、現在は『落合水再生センター』と言う名称に変わりました。

言うまでもなくこのセンターは、家庭のトイレ、台所、浴室など全ての生活排水を処理し、無害の処理水として川に放流、又は再利用する重要な役目を担っています。

この施設が稼動するまで、生活排水は側溝を通り川へ、し尿は清掃業者で汲み取られ環境処理施設まで運ばれ処理されていきました。

都内にはこのような施設が13か所もありそれぞれ処理されておりますが、いずれも環境には色々と配慮がされています。特に落合は



落合水再生センター隣のせせらぎの里

街中にあり、他所にはない施設が随所に見られます。

他所では通常の処理をして河川に放流していますが、ここでは高度処理をして再利用し、更に飲料水に匹敵するような水質にして、公園化された敷地内に流し、

「せせらぎの里」として憩いの場所を住民に提供しています。また施設の屋上は、テニスコートや野球場などスポーツ施設として一般の人たちに開放しています。